

最終成果報告書

報告者氏名：草川 聡美

所属：千葉県立船橋特別支援学校

記録日：平成27年2月27日

【対象児の情報】

●学年 小学部6年 男児

●障害と困難の内容

■知的障がい

■肢体不自由

◎重度重複障がい（ウェルドニツヒホフマン病）

■病弱

※24時間家庭のベッド上での生活。人工呼吸器をつけ、経鼻経管栄養注入、気管内、口腔内、鼻腔内吸引、口腔内唾液持続吸引などを行っている。未定頸で、本人が随意的に動かせるのは眼球、頬、鼻周りの筋肉、などである。

（本児の1週間のスケジュール）

	月	火	水	木	金
午前	学校（訪問授業）	訪問OT	訪問看護	訪問PT	訪問看護
午後		学校（訪問授業）			学校（訪問授業）

※この他、2週間に1回、訪問診療、訪問PT、3か月に1回程度訪問歯科診療がある。

（コミュニケーション・学習面についての実態）

- ・小学校1年生程度の国語・算数の学習に取り組んでいる。身近な人やものの名前なども理解しており、実物や写真、絵を見て、単語（ひらがな）カードとのマッチングなどで正しいものを選ぶこともできる。
- ・ひらがなについては、ものの名前などの大まかな理解はしているが「い・り」や「め・ね」、「ま・も」など音や見た目が似ているものは間違えることがある。
- ・何かを選ぶことは「これ？」「こっち？」など教師が指をさし、本人がうなずく（YES）首を振る（NO）で答えることができる。また、横30センチ程度の長さ上にある選択肢であれば、左右に視線を動かし正しいものを選ぶことができる。

身体の動作、サイン	言葉での表現
<ul style="list-style-type: none"> ・うなずく（YES） ・首を振る（NO） ・眼球を激しく上下する（かえて、やめて、違う） ・下唇を左右に動かす（DVD、DVDを見たい） 	<p>（要求、自発的な言葉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかあさん ・うんうん（トイレ） ・せんせい ・ごはん（本、本を読んでほしい） ・〇〇（自分の名前） ・おはよう <p>（きっかけを受けて発する言葉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おわった（注入が終わったアラーム音が鳴ることにより） ・ほしい（テレビや本などを見てほしいもの、興味のあるものに対して） ・ミッキー、ふなっし〜、はくほう、ごはん（テレビや本などを見て） ・よいしょ（保護者や支援者が言っているのに合わせて）

【活動目的】

●当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

- ①興味関心の高まり
- ②自分の気持ちを自分から伝える。

●実施期間

平成26年5月9日～

●実施者

草川 聡美

●実施者と対象児の関係

訪問学級の担任（1日2時間の授業を週3日家庭で実施）

【活動内容と対象児の変化】

●対象児の事前の状況

(目標①興味関心の高まりについて)

本児が好きなものは、戦隊ものやヒーローもののテレビ番組や、それに関連したDVD・本などである。その他の絵本の読み聞かせも好んでいる。以前スクーリング時に呼吸状態が悪くなったことがあり、「学校に行こう」という誘いかけや外出そのものに応じることが少ない。日常的に大人との関わりが多く、友だちとのやりとりの経験が少ない。

(目標②自分の気持ちを自分から伝えるについて)

周囲の人に自分の気持ちを伝えようとすることはあるが、慣れていないと見逃してしまう動きであったり、発語の聞き取りが難しかったりする。そのため、支援者との話にはほとんどの場合母親があいだに入っている。母親の姿が見えないときなどは「おかあさん」と連呼して助けを求めることが多い。

●活動の具体的内容・対象児の事後の変化 (使用アプリ: カメラ、ビデオ、写真) 目標①に関する活動

活動	実施日	活動内容・iPad 活用内容	事後の変化
校外学習 (買い物しよう)	5月14日(水) 事前・事後学習 計4回実施	<p>〈事前学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動経路(家庭→最寄り駅→目的地 周辺駅→目的地)の確認 ・切符の買い方の確認 ・目的地での活動の確認 (商業施設内書店にて本を購入) <p>〈当日〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引率教員により、写真、動画撮影 <p>〈事後学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画で振り返り (買い物の場面、商業施設職員へのあいさつ場面等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて電車に乗った緊張と暑さのため、体調が悪くなったにも関わらず、「また行きたい!」の感想を選んだ。 ・自分から、iPadに視線を向けて、外出してきたこと、写真を見てほしい気持ちを伝えるなどの様子が見られた。  
修学旅行 (ディズニーシー)	10月14日(火) 事前・事後学習 計7回実施	<p>〈事前学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地での活動の確認 ・パーク内のアトラクション動画を使って疑似体験 ・パーク内キャラクター確認 ・ビデオを使って通学の児童と同じ授業を受ける(キャラクターと親しもう、日程を確認しようなど) <p>〈事後学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真で振り返り (記念撮影、買い物場面等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習時は「キャラクターが怖い」「嫌だ」など主張することが多かったが、当日は落ち着いていた。(心拍、血中酸素飽和度通常値、排泄も通常回数あり) ・キャラクターとの写真撮影ができたり、日程通りに活動できたりした。 ・家庭に入る支援者に写真を見せて、やりとりを楽しんだ。  

合同学習 (テレビ電話)	5月21日(水) (30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の事前学習(紅白発表、出場競技確認) ・学習報告(校外学習報告) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活き活きとした表情で画面を見つめ、「○○ちゃん」と自分から友だちに呼びかけた。 ・紅白発表では、「あか(ぐみ)」と相手に聞こえるようにしっかり発表したりした。
	7月7日(月)(30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の学習(七夕、彦星・織り姫のコスチュームで合奏) ・修学旅行事前学習に向けて(2学期から修学旅行の学習が始まることの予告) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独での音楽の授業よりも、足をよく動かし、曲中繰り返し楽器を鳴らしていた。 ・修学旅行の学習の予告は、画面に出てきたディズニーのキャラクターのぬいぐるみを見て驚きいていた。 ・「○○ちゃん(友だち)の家に△△が来てた？」と聞くと声を出し応え、「今度●●先生に聞いてみようか？」と尋ねると大きくうなずいていた。
	10月27日(月) (30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行事後学習(おみやげ紹介、楽しかったこと発表など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出したり、呼びかけにうなずいたり、「あはは」と笑い声をあげたりして、30分という長い時間集中している様子が見られた。 ・「またskypeする？」の問いかけにうなずく、大きな声で「あー」と応えるなどが見られた。
	2月16日(月) (30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作発表(フォトフレーム披露、がんばったこと発表) ・卒業式に向けて(日程確認、呼名、校歌の練習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつやってくれる人?」「どちらからやる?」などの問いかけに積極的に「あー」と声を出したり、うなずく動作でやりたい気持ちを表したりしていた。
合同学習予告 (ビデオレター)	1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作について(進捗状況報告) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が撮影を好まないため、学校の先生や友だちからのビデオレターを視聴するのみにした。 ・音声を聞いているような様子はあるが、目を反らしたり、見たくないという気持ちを表したりすることがあった。

(日記を使った取り組み) 使用アプリ ; 瞬間日記 目標②に関する活動

活動内容(日記に残した事柄・配慮事項など)	事後の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・複数訪問(全5回)での授業、戸外・校外学習、行事準備など普段と違う授業の様子。 ・日記は、「○○をしました。」「△△先生が家にきました。」などはじめは事実を入力した。 ・活動に慣れてきた頃に事実に合わせて、「～だった?」「～と思った?」など気持ちを表す言葉を投げかけ、児童が選んだ。 ・言葉だけの投げかけでは選べないときは、ドロップスのカードを用い、そこから選んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期前半の内容と後半の内容を比較すると形容詞が増えたり、文章の内容が深まったりしている。 ・「○○?」「△△?」など形容詞を示す際に、選択肢がないときははっきりNOを伝え、納得のいく日記にしようとする意欲がみられた。 ・日記を書いた後に、他の支援者にiPadを見て欲しいことを視線などで伝え、報告したい気持ちを表せた。 ・授業の中で、視線でiPadを示し、写真を撮ってほしい気持ちを伝えることが増えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援者間で、日記を連携のツールとして捉え、互いの支援の様子や授業の様子などのビデオや写真を入れて情報を共有し、連携が深まるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PT、OTのリハビリの様子を動画で撮影したことで、授業の自立活動の取り組み(マッサージやポジショニング、パソコンを使つての文字入力)に生かすことができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

気づき①→画面への注視割合の変化から、テレビ電話での合同学習を重ねることで、友だちに興味をもって意欲的に活動に取り組めたのではないかと感じる。注視の割合の変化は、ビデオ電話から、テレビ電話に変えたことが要因の一つとして考えられるのではないだろうか。

(エビデンス①～ビデオレターとテレビ電話での取り組みの比較表～)


	活動時間	発言した言葉・サイン・回数	注視時間	注視できていない時間	注視割合
ビデオレター視聴 平成27年1月13日	53秒	おかあさん×5回	6秒	47秒	11.3%
ビデオレター撮影 平成26年3月4日	47秒	〇〇(自分の名前)×1回 ごほん(本)×1回 あはは(おもしろい)×1回	21秒	22秒	44.6%
テレビ電話 平成27年2月16日	42分 19秒	うなずき×32回 あ～(返事、あいづち)×44回 〇〇(友だちの名前)×23回 ごほん(本)×20回 あはは(おもしろい)×8回 おは～(おはよう)×6回 のって(歌の歌詞) よいしょ・じょうず(支援者が言ったのを聞いて)×1回	23分 10秒	19分 9秒	54.7%

気づき②

→日記の活動の中で、体験したこと、がんばったことを写真や動画に残すことで支援者とのやりとりが深まり、そのことに児童が楽しみを見出し始めているのは、児童が日記で使う言葉や表現が変化してきたことや、教師の予想外のことが含まれることから、そういえるのではないか。

(エビデンス②～瞬間日記の取り組みについて～)


火 14:06 17 6月17日



せんせいがほくのいえにきました。仮面ライダーウィザードのはなしをしました。おはなしがおもしろかったです。パソコンをがんばりました。ほんを2さつよんでもらいました。

6月17日 「おもしろい」という表現が出てきた。日記を作成しているときに「あはは」という言葉が出て、何がおもしろかったか聞き取って書いたもの。


水 15:11 17 2014年9月17日



DVDがついたほんをかいにいきました。おかあさんと、さかもとせんせいと、くさかわせんせいとかんごしのひろたにさんとすずきさんといっしょにいきました。おかあさんといけてうれしかったです。かえてきてから、おかあさんとDVDをみました。おもしろかったです。

9月17日 戸外学習で近所の書店に出かけた後に感想としてまとめた日記。「おかあさん」という言葉が出てきたので、その後「たのしい」「うれしい」などの言葉を投げかけ、児童が「うれしい」と聞いてうなずいていた。「DVD」「あはは」などの言葉も出たため文章にして児童と確認した。

木 10:44 9



ぼくは、ときどき、べんきょうをするのがいやになります。そういうときはめをうえにあげてねむったふりをします。

10月9日 授業中に眠そうな様子を見せ、iPadを見る。「写真？」と聞くと首を振る。いくつか質問した後「日記？」と聞くと大きくうなずく。相談しながら日記の文を作った。完成したものを、読み上げると何度も「あはは」と声を出す。

気づき③

→iPad が支援者間で連携のツールとして活用され始めたのではないか。

(エビデンス③～日記を使った連携について～)

家庭に入っている支援機関へのアンケート結果、平成27年2月実施

(訪問看護師1名、理学療法士2名、作業療法士1名より回答)

1. iPad (写真、ビデオ機能、日記) は学校での授業の様子 (戸外学習、校外学習、修学旅行含む) や他の支援機関の支援内容を知り、連携をはかる上で役に立った。

とても役に立った2名

役に立った2名

どちらでもない

どちらかといえば役に立たなかった 役に立たなかった

2. 自分の支援活動を学校や他の支援機関に知らせ、連携に役立てられた。

とても役に立った2名

役に立った2名

どちらでもない

どちらかといえば役に立たなかった 役に立たなかった

3. iPad の導入前より今のほうが、児童の理解が深まったと感じる。

そう思う3名

どちらかというと思う1名

以前と変わらない

導入しないほうがよかった

4. 質問1、2、3についての自由記述。

- 学校、訪問看護、訪問リハビリと複数の機関が連携する場合、共通のツールがあることでスムーズに連携できました。教材として、共通のアプリが使用できるともっとよかったかと思えます。
- 写真、ビデオ機能を使い、普段のリハビリでは見ることができない戸外学習の様子やお子さんの表情を見せていただくことができました。また、先生とも連携して、福祉用具の作成時のよいヒントをたくさん頂きました。私達の関わりも iPad を通じご覧頂き良い連携のきっかけ作りにもなりました。今後もこのツールが活用されることを願います。
- 写真とかが記録として残ることもいいことではありますが、動画 (ビデオ機能) はとても役に立ったと感じます。リハビリの様子を自分の目で見て雰囲気もわかり、お母さんからの情報も加わり、より充実した関わりができたと思えます。〇〇くんと同じように在宅で生活するお子さんがこんな風に授業を受けたり、外出ができたりするのだ、という良いきっかけを作り、支援・連携の幅が広がることを強く願います。

●その他エピソード

* テレビ電話でのやりとりでは、相手からの「校外学習で何に乗ったの？」の質問に、担任が「バス？」「車？」「電車？」と問いかけ、「電車」と聞いて「あー」と大きな声を出し、相手に「電車で行ったのね」と言葉をかけられ嬉しそうに何度もうなずいていた。

* 夏休み、冬休みなど授業がないときも家庭で保護者と日記をつけていた。そのことにより、長期休業中でも児童の様子がよりわかり、母親がいない場面でも、児童と担任で夏休みの思い出の話しができ、満足そうな様子であった。

* 何かあるごとに、「iPad で撮影しておきましょう！」と母親に話してきた。当初は担任が授業の様子や補助具のセッティングの様子などを撮っておくことが多かった。今では、母親のほうから「先生撮っておきます？」と提案してくることがある。また授業のない日の様子 (体調に関すること、PT、OT との活動) を、以前はこと細かに母親が連絡帳に書いていたが、今は「iPad に撮りました」の一文が入るようになり、細かな部分はビデオや瞬間日記で確認ができるようになった。

* 母親からは、「iPad を使用することにより、興味を持って学習に取り組んでいると思う。他機関も学習の様子を見ることができたり、情報の共有もできたりしている。」「訪問同士の交流をする事はとてもいいと思うのでスカイプを使っでの交流など引き続きお願いします。」などの話を聞くことができた。

(取り組みを振り返って・今後に向けて)

経験の少ない児童にとって、テレビ電話での合同学習で同年代の友だちとやりとりできたことが良い刺激となり、意欲的に活動することができた。また、「瞬間日記」は、児童にとっては、自分の気持ちや体験したことを周囲に伝えるものとして、家族を含んだ支援者にとっては、連携のツールとして活用できたことを今後の授業や他機関との連携をしていく上で大切にしていきたい。

今後も、家庭での学習をベースに、児童のできる範囲での様々な経験を重ねるとともに、支援者間の円滑な連携について考えていきたい。

